

佛蘭西政令下帙卷之二



414  
A2790  
7



佛蘭西政令下帙卷之二  
第二篇

海河

政令ニ於テ公有ノ海河ト舟楫ヲ通ス可ラス又  
材木ヲ流ス可ラサルノ河トヲ區別ス

公有ノ海河

公有ノ海河ハ海ノ公有ト河ノ公有トヲ含蓄ス  
海ノ公有ハ海岸港湾ナリ

海岸トハ新月ト満月ノ間ニ海水ノ干満ニ三月  
ノ大潮ノ沙上ニ浸シ至ル処迄ヲ云フ

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

海岸ニハ家ヲ建築ス可ラス杭ヲ樹ツ可ラス航  
海ニ妨ケアル所業ヲ為ス可ラス若シ之ヲ犯ス  
時ハ大道取締ノ如ク罰ヲ命ス  
海岸ニ接續スル私有地ハ往来ヲ作ルノ義務ア  
ルヤ否此義務ヲ法律文中ニ載セサルカ故ニ否  
ト答フルモノ衆説ナリ

民法ノ五百三十八個條ニ海中ノ砂洲ヲ公有地  
ノ部中ニ加入レタルハ誤ニシテ公有地ト国有  
地トヲ混乱スト云フ可シ如何トナレハ砂洲ハ  
国ノ私有地ノ一部ニシテ讓與シ得可ク且弃捐

ヲ受ク可ケレハナリ

海ノ界ヲ定ムルニハ代法制誥ヲ以テス尤旁告  
人ノ訴ルノ権アリ

海ノ公有ノ部分ノ公有タルヲ布告スルニハ州  
知事ニ於テシ其布告ノ決定書ハ海軍長官ノ點  
檢ヲ要ス

海中ニ於テ漁獵スルノ権ハ衆人ニ歸ス海岸ニ  
於テ漁獵スルノ規則ハ千八百五十二年一月九  
日ノ制誥ヲ以テ規定セリ此制誥ニハ海軍長官  
ノ許可ヲ要スルヲ載ス

河ノ公有ハ舟楫ヲ通ス可ク又材木ヲ流ス可キ  
河川ヲ云フ

船ヲ浮フ可ケレハ舟楫ヲ通ス可キ河ト云ヒ材  
木ノ組合セ即チ筏ヲ運漕可ケレハ筏ヲ流ス可  
キ河ト云若シ材木ノ一本立チナラデハ流ス能  
ハサル河ハ公有ノ部今ヲ為サズ

舟楫ヲ通ス可ク筏ヲ流ス可キ河ノ漕ノ幅ヲ定  
ムルハ政令官署ニ於テス之ヲ布告スルハ州知  
事ノ決定書ヲ以テス尤水車ニ付テ出シタル千  
五百六十六年ノ布令書以前ニ權利ヲ得タル傍

告人ハ裁判所ニ訴ヘ已レノ権ヲ保護シ得可ク  
又権ヲ越テノ決定書ナルモハ国議院ニ上告シ  
得可シ

河岸ハ私有地ナリ舟楫ヲ通シ筏ヲ流ス可キ河  
ノ島嶼砂洲ハ国ノ私有地ニ属シテ公有ニ非ス  
舟楫ヲ通ス可ラス筏ヲ流ス可ラサルノ河

川

舟楫ヲ通ス可ラス又筏ヲ流ス可ラサルノ河川  
ハ公有ノ部中ニ加ヘス然レハ之レハ何者ニ属  
ス可キヤ議論紛々遂ニ三派ニ分レタリ

甲ハ云フ国ニ属スト盖シ国ハ舊領主ノ後嗣タルモノナレハナリ此論ヲ助クル為メニ諸河川ノ地稅ヲ免シタル第七年霜月ノ法律及ヒ河岸ノ住民ニ水ヲ受用スルノミノ權ヲ許シタル民法六百四十四個條及ヒ六百四十五個條及ヒ河ヲ舟楫ヲ通ス可キト布令シタルヨリシテ漁獵ノ權ヲ廢スルニ至リ償金ヲ給スルヲ許サバル所ノ千八百二十九年四月十五日ノ法律及ヒ河漚ヲ變シタル時ニ其新ニ用ヒタル土地ノ所有主ニ廢棄シタル舊漚ノ地ヲ歸スル所ノ民法五百

六十三個條ヲ掲ケタリ

乙ハ云フ所有ノ權ハ河岸ノ住民ニ歸スト此河川ハ公用ニ充タス国ノ所有品ノ如ク貸渡シ得可ラス漁獵ノ權ハ河岸ノ住民ニ歸シ水ヲ受用スルノ權モ亦河岸ノ住民ニ歸ス又民法五百六十條ニハ河漚ノ一部分トシテ見做ス可キ小嶼ノ所有ノ權モ亦河岸ノ住民ニ歸スルヲ許シタリ

丙ハ云フ此河川ノ所有ノ權ハ主アルヲナシ民法ノ七百四十四個條ヲ之ニ當ツ可シト此個條

ニ載スルニ属スル所ノ主ナキ物品ヲ受用スル  
事ノ仕方ハ警部ノ法則ニ從テ規定シ受用ノ權  
ハ諸人ニ通スト是駁議裁判所及ヒ国議院ニ於  
テモ同意スル所ナリ

舊滙ハ害ヲ受ケタル所有主ニ歸セシムルト民  
法五百六十三個條ニ定メタルハ公平ノ處置ヲ  
為ス為メナリ如何トナレハ舊滙ハ主ナキ物品  
ナルカ故ニ之ヲ国ニ領セス損害ヲ受ケタル持  
主ニ歸スルヲ立法者ノ正直トスル所ナレハ十  
リ

河岸ノ住民ニ許シタル水ヲ受用スルノ權及ヒ  
其他ノ利益ハ河ニ隣セン住民ノ受ル所ノ不便  
利及ヒ住民ニ命シタル川浚ノ義務ヲ償ハンカ  
為メナリ

此丙ノ論ヲ用フルニ於テハ公用買上ケノ時ニ  
河滙ヲ為メニ償金ヲ給スルニ及バズ工業ヲ行  
ヒ製造所ノ水力ヲ廢シタル時ニハ不朽ノ損害  
ハアレモ公用ノ買上ニ非ス依テ州知事評議所  
ニ於テ規定ス可キ償金ヲ給ス可キヲ知ル可シ  
公有ノ河ト舟楫ヲ通ス可カラズ筏ヲ流ス可カ

ラサル河トヲ區別シテ大ニ利益アリ今茲ニ舟  
楫ヲ通スルノ製造所ノ建設漁獵引水乾水浚及  
ヒ權ノ適不適ヲ述フ可シ

舟楫ヲ通スル事

舟楫ヲ通スルノ便ヲ為ス為メニ其河岸ノ住民  
ハ走馬道路行人道路ヲ作ルノ義務ヲ受ク  
走馬道路ハ舟ヲ引ク処ノ塲所ヨリ二十四尺ヲ  
隔テ水邊ヨリ三十尺ノ間ハ樹木ヲ種藝シ牆壁  
ヲ樹ルヲ得ズ

他ノ一方ニ於ル行人道路ハ十尺ヲ隔ツ

一木立ノ材木ヲ流ス可キ河川ハ公有ノ部ニ加  
ハラズト雖モ四尺ノ路ヲ残スハ其河岸ノ住民  
ノ義務ナリ

走馬道及行人道ノ義務ハ諸公用ノ義務ノ如ク  
償金ヲ給スルヲナシ

舟楫ヲ通スル為メニ舟ヲ兩岸ヨリ引クヲ要  
スル時ハ償金ヲ給スルヲナクシテ兩方ニ走馬  
道ヲ設ク可シ

是迄舟楫ヲ通ス可ラサリシ河川ヲ工業ヲ用ヒ  
テ舟楫ヲ通ス可ク為シタル時ハ新ニ此義務ヲ

立ツルカ故ニ償金ヲ給ス償金ハ命價人ニ掛ケ  
タル後州知事評議所ニ於テ定ム  
舟楫ヲ通ス可ラス筏ヲ流ス可ラサル河川ニハ  
此義務アルナシ

製造所

舟楫ヲ通シ筏ヲ流ス可キ河川ノ製造所ハ帝ノ  
制誥ヲ以テ許可スト雖モ千八百五十二年ノ制  
誥以來水利ヲ著ルク変スルノ患ナケレハ假ノ  
建設永久ノ建設ヲモ州知事ニ許可スルノ権ヲ  
有セリ

浚

舟楫ヲ通シ筏ヲ流ス可キ河川ヲ浚フハ国ノ任  
ナリ  
舟楫ヲ通セス筏ヲ流サ、ル河川ノ浚ハ河岸住  
人ノ任ナリ

適不適

公有ノ海川ノ為メニハ大道取締ノ事件ノ如ク  
侵占及ヒ損害ヲ辨理スルハ州知事評議所ノ任  
ナリ  
舟楫ヲ通セス筏ヲ流サ、ル河川ノ為メニハ違



式ハ警視裁判所ニ適ス漁獵ハ懲戒裁判所ニ適  
シ水ノ受用ニ拘ハリタル爭論ハ民事裁判所ニ  
適ス

引水乾水及ヒ浚ノ工業ハ都テ關係アル所有主  
ニテ組立タル工業會社ノ業ナリ

工業會社漸々ニ開ケ盛大ナルカ故ニ其會社ニ  
付テ規定シタル千八百六十五年六月廿一日ノ  
法律ノ意ヲ茲ニ述ルハ摘要ナル可シ

### 工業會社

千八百六十五年六月廿一日ノ法則ニ掲クル事

製造所ヲ廢スル時ニ償金ヲ給スル事ナシ尤其  
製造所ハ千五百六十六年ノ水車ノ布令以前ニ  
建設シタルカ又ハ償金ヲ以テ買受タル時ハ此  
例ニ非ス

舟楫ヲ通ス可ラス筏ヲ流ス可ラサル河川ニ建  
設スルハ州知事之ヲ許可ス建設ヲ廢棄スル時  
ハ償金ヲ給ス尤水利取締ノ為メニ定メタル之  
レニ反スル件アレハ此例ニ非ス

### 漁獵

舟楫ヲ通シ筏ヲ流ス可キ河川ニ於テ漁獵スル

ノ権ハ国ニ歸シ此権ヲ国ヨリ貸渡シ得可シ  
舟楫ヲ通ス可ラス筏ヲ流ス可ラサルノ河中ニ  
漁獵スルノ権ハ河岸ノ住民ニ歸ス公用買上ノ  
時ハ償金ヲ望ミ得可シ償金ハジリニテ定ム

### 引水

舟楫ヲ通ス可ク筏ヲ流ス可キ河川ヲ分水スル  
ノ許可ハ製作所ニ付キ定メアル區別ニ從テ州  
知事ニテ許可スルモノアリ又制誥ヲ以テ許可  
スルモノアリ

舟楫ヲ通ス可ラス又筏ヲ流ス可ラサル河川ノ

水ヲ引クハ河岸住人ノ権ニシテ唯水利ノ規則  
ニ從フヲ要スルノミ

耕作ノ助ケノ為メニ數多ノ義務アリ

第一河ヨリ遠サカリタル土地ニ水ヲ引クカ或  
ハ水ノ溢レヲ通疏セシメント欲スル河岸居住  
ノ所有主ノ利益ノ為メニ河ト其土地トノ間ニ  
アル土地ハ水吐キヲ作ルノ義務アリ

第二水ノ水平ヲ高フシ引水ヲ便ニスル為メニ  
對岸ニ堰ヲ作ルノ義務アリ

此二項ノ義務ヲ為スニ裁判所ニテ規定シタル

償金ヲ受ル事アリ

乾水

乾水ハ土中ニ管ヲ入レ水ヲ乾カスモノニシテ  
乾水ノ一箇ノ所置ヲ云フ

千八百五十四年六月十日ノ法律ヲ以テ管中ノ  
水ヲ吐カシムル為メニ近隣ノ土地ニハ水道ヲ  
作ルノ義務アリ尤償金アリ

千八百五十八年五月廿八日ノ法律ヲ以テ乾水  
ヲ便ニスル為メニ土工積金ヲ以テ償金ヲ為ス  
ヲ定メタリ

左ノ如シ

第一工業會社ヲ起ス可キ場合ヲ増加シ此會社  
ヲ手廣クスルヲ務ムル事

第二一箇ノ人タルノ本分ヲ此會社ニ許ス事

第三政令ノ官署ヲ交ユル事ナク工業會社ヲ起  
スヲ許シ以テ其會社ヲ起スヲ進ムル事

工業會社ノ目的トスル処ハ左ニ掲クル所ノ工  
業ヲ起スト保護スルトニアリ

第一海大河洪水及ヒ舟ヲ通シ或ハ通セザル川  
ノ水利ノ預防

第二溝渠及ヒ舟ヲ通ス可ラス筏ヲ流ス可ラサル河川及ヒ乾水引水ノ為メニ設ル溝渠ノ浚及ヒ方向ヲ正ス事等

第三沼地ノ乾水

第四海塩ノ水道及ヒ其他海塩ノ製作ニ必用ナル諸業

第五湿地及不健康ノ地ヲ健康ニスル事

第六引水及ヒ埋地

第七乾水

第八衆人ノ益トナル畔路及ヒ其他耕作ヲ便利

ニスルノ道路

千八百六十五年ノ法則ヲ以テ工業會社ヲ二種ニ區別セリ自由工業會社ト官許工業會社トナリ

兩會社ニ相通用スル規則

自由ノ會社モ官許ノ會社モ一箇ノ人タル可シ依テ其社長ヲ以テ訴訟ヲ為シ得可ク受與交易貸借及ヒ收納抵当ノ權ヲ行ヒ得可シ

民権政權ヲ得サルモノ、土地或ハ引出物ノ土地等ノ為メニ此兩會社ニ加入スルヲ難カラス

所有主代人ヨリ裁判所ニ願出其評議室ニテ與  
フル裁判所ノ許可アレハ足レリトス

自由工業會社及官許工業會社ノ區別

第一自由ノ會社ハ官署ヲ交ヘス社中ノ同意ナ  
ルヲ新聞紙ヲ以テ布告シ及ヒ州廳ノ文書輯  
中ニ編入シタルヲ以テ起シ得可シ

官許ノ會社ハ官署ヲ交ユ依テ官署ノ吟味ノ上  
ニテ作ル州知事ノ決定書及ヒ衆意ト廣益トヲ  
以テ此會社ヲ起シ得可シ

所有主ノ人負半分以上ニ達シ土地ノ表面ノ三

分ノ二ハ既ニ同意ノ者ノ所領ナルカ或ハ所有  
主ノ人負ハ三分ノ二ニ達シ土地ノ表面ノ半分  
以上其所有主ノ領ナルカニ非サレハ衆意廣益  
ト云フヲ得ス

州知事ノ作ル許可或ハ拒ミノ決定書及ヒ官許  
會社ノ約定ノ抄出書ヲ工業ヲ起ス土地ノ属ス  
ル里ニ榜示シ及ヒ州廳ノ文書輯中ニ編入ス  
工業ニ管スルモノ及ヒ旁告人ハ州知事ノ決定  
書ニ對シテ上告シ得可シ此上告ハ國議院ニ於  
テ作ル制誥ヲ以テ決ス

第三第四第五ニ掲ケタル工業ニ付キ所有主不  
同意ナル時ハ榜示ヨリ始テ一个月中ニ我所有  
地ヲ償金ヲ以テ譲ラントテ州廳ニ訴ヘ得可シ  
償金ハ鄙郷道路ニ拘リタル公用買上ノ如ク四  
人ノビリー之ヲ定ム

第二自由ノ會社ハ上ニ掲ケタル諸業ノ為メニ  
起シ得可シ

官許會社ハ始メノ五項迄ニ掲ケタル工業ニ非  
サレハ起シ得可ラス

第三自由會社ハ一般ノ通法ト社中ニテ結ヒタ

ル盟約トニ從フヘシ

官許會社ハ新法ノ十五个條ヨリ十九个條迄ニ  
掲ケタル免許ヲ受ク其免許左ノ如シ

第一工業ヲ行フ為メニ之レニ關係アルモノ  
ヨリ納ムヘキ税額ハ社長ニテ作り州知事ニ  
テ許可シ及ヒ施行ス可キモノト認定シタル  
簿書ヲ以テ取立ツ請取方ハ直税ト同様ナリ  
第二土地ノ立級配級税ノ請取方及ヒ工業ノ  
施行ニ拘リタル爭論ハ州知事評議所ニ適シ  
恰モ公業ノ如シ且ツ此會社ノ生産ハ里ノ収

納役ノ會計ノ決算ノ如ク入額三萬フランク  
ヲ越ユルト越ヘサルトニ從ヒ州知事評議所  
ニ於テスル事アリ統計官ニ於テスル事アリ  
第三若シ工業ノ為メニ公用買上ヲ要スル時  
ハ國議院ニ於テ作ル制誥ヲ以テ公用買上ノ  
布令ヲ為シ鄙郷道路ノ為メニ規定シタル規  
則ニ從テ辨理シ且其償金ハ四人ノジリ一之  
ヲ定ム  
第四義務ヲ定ムルニ付キ起ル爭論ハ治安裁  
判役ニ初審裁判ヲ乞フ千八百五十四年六月

十日ノ法律ヲ以テ乾水ノ事ニ付キ既ニ之ヲ  
命セリ

官許工業會社ハ此ノ如ク別段ニ免許アルヲ以  
テ千八百五十六年ノ法律ハ自由會社ニモ官許  
會社ト変スルヲ許セリ尤會社ノ約定書中ニ反  
体スル約束アルカ又衆意廣益ノ个條ヲ滿サバ  
レハ之ヲ許サス

自由會社或ハ官許會社ヲ起サ、ル時ニハ三个  
ノ場合ニ於テハ所有主ヲ會セシメ而シテ川浚  
ニ付キテ出セル第十一年花月十四日ノ法律及

七沼地乾水ニ付キ出セル千八百七年九月十六  
 日ノ法律ニ從ヒ工業ノ費ニ給スルヲ所有主ニ  
 命スルノ権アルヲ千八百六十五年ノ法律中  
 ニ別外ニ記シタリ  
 上ニ云フ三个ノ場合トハ水利ノ預備及ヒ川浚  
 及ヒ沼地乾水ナリ  
 此三个ノ場合ハ一般ノ安全ニ拘ハルモノナル  
 カ故ニ強テ所有主ヲシテ會社ヲ結ハシムル事  
 ヲ千八百六十五年ノ法律ニ別外ニ記シ以前ノ  
 法律ト異ナルトナシト雖モ此法律ノ二十六個

條ニハ以前ノ法律ニ異ナル所ノモノニツテ載  
 セタリ

第一七人ヲ以テ為シタル格段ノ委員ニ前以テ  
 訴ヘタル爭論ニ付キテ決定スル所ノ官署ハ州  
 知事評議所ナリ  
 第二此三个ノ場合ニ於テ税ノ請取方公用買上  
 ケ及ヒ義務ヲ定ムル事ニ付キ官許會社ノ諸規  
 則ヲ用ユ

第三篇

危嶮ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スルノ



建設

畧紀

千七百九十一年アッサンブレーコンステターア  
ントノ建国ノ時ニ貿易及ヒ製造ノ自由ヲ布令  
シタレトモ此建設ニ拘ハル取締リハ地方ノ官  
署ニ任シ其他ノ地方ニ拘ハル取締リノ如ク依  
然トシテ本ノ如シ依テ不都合ヲ生スルヲ少ナ  
カラス

大學校ノ術藝課ノ奏書ニ依テ千八百十年十月  
十五日ニ制誥ヲ出シタリ此制誥ハ此件ノ原則

タリ

此制誥ヲ千八百十五年正月十四日ノ布令書及  
ヒ千八百五十二年三月廿五日ノ制誥及ヒ千八  
百六十六年十二月卅一日ノ制誥ヲ以テ増加改  
正セリ六十六年ノ制誥ニハ諸建設ノ部別ケヲ  
新ニ記載シタリ

現今ノ制度

千八百十年ノ制誥以來危嶮ヲ包蔵シ便利ヲ妨  
ケ健康ヲ害スルハ建設ヲ三級ニ分ツ  
一級ニ含ム所ノモノハ皆人ノ居住ヨリ遠サク

可キモノニシテ屠場火藥製造所硫酸製造所等  
ノ如キモノナリ  
二級ニ含ム所ノモノハ多少ノ防備ヲ爲シ住所  
ニ近ヨリ妨ケナキモノニシテコロール製造所  
砂糖製造所及ヒ皮革製造所等ノ如キモノナリ  
三級ニ含ム所ノモノハ住処ニ近ヨリテ建設シ  
妨ケナシト雖モ地方ノ取締ニ從フ可キモノニ  
シテ麥酒釀成所火酒性ノ飲料釀成所洗物場五  
千人以上ノ市街ニ於ル牛乳搾リ所等ノ如キモ  
ノナリ

千八百十年ノ制誥ニ付シタル表ハ各級ノ建設  
ノ目錄ヲ載セ千八百十五年ノ布令書ニ付シタ  
ル表ヲ以テ之レニ替ヘ千八百六十年十二月三  
十一日ノ制誥ヲ以テ新ニ表ヲ作り諸建設ノ名  
ト其屬ス可キ級トヲ擧ケタリ  
表中ニ含蓄セサル新規ノ建設ハ州知事ニテ假  
ニ停止シ得可シ尤配級ノ決定ノ後ニ之ヲ起ス  
許可ヲ得タルハ此例ニ非ス  
危険ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スル建設ノ  
事件ハ政令官署ニ屬スル事アリ司法官署ニ屬

スル事アリ

政令官署ニ属スル事件

危険ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スルノ建設  
ヲ三級ニ分ツハ左ニ記スル三件ニ付テ益アル  
ヲ以テナリ

第一此建設ノ許可ヲ與フ可キ官署

第二許可ヲ受クルノ手順

第三政令官署ノ決定ヨリシテ起ル所ノ訴訟

許可ヲ與フ可キ官署

千八百十年ノ制誥ニ從ヘハ一級ノ建設ハ国議

院ニ於テ作ル帝ノ制誥ヲ以テ許可スルヲ要シ  
タリト雖モ千八百五十二年三月廿五日ノ制誥  
以來諸州ニ於テ許可ヲ與フルハ州知事ナリ巴  
里及ヒ其警部長官ノ管下ニ属スル諸里中ニ於  
テ許可ヲ與フルハ警部長官ナリ  
取締ノ都合ニヨリ此建設ヲ廢棄スル時ハ必ス  
国議院ニ於テ作ル所ノ帝ノ制誥ヲ以テスルヲ  
要ス

二級ノ建設ハ州中ニ於テハ郡知事ノ意見ヲ聞  
キ州知事之ヲ許可ス巴里及ヒ其警部長官ノ管

下ノ里中ニ於テハ警部長官之ヲ許可ス  
三級ノ建設ハ州中ニ於テハ里長ノ意見ヲ聞キ  
郡知事之ヲ許可ス巴里及ヒ其警部長官ノ管下  
ノ里ニ於テハ警部長官之ヲ許可ス

許可ノ手順

三級ノ建設ニ付テハ許可ノ手順ノ為メニ別段  
ニ規則アル事ナシト雖モ便不便ヲ問フノ先例  
アリ

一級二級ノ建設ノ許可ノ為メニハ規則アリ然  
レ此規則ニ種々ノ別アルヲ左ノ如シ

第一一級ノ建設ノ為メニハ直ニ願フ州知事ニ  
宛テ二級ノ建設ノ為メニハ先ツ之ヲ郡知事ニ  
宛テ之カ為メニ意見ヲ述ヘシム

第二一級ノ建設ノ場所ヨリ周圍五キロメートル  
ル内ニ跨ル諸里中ニ一个月間願面ヲ榜示ス二  
級ノ建設ノ為メニハ願面ヲ榜示スル事ナシ  
第三一級ノ建設ノ為メニ便不便ノ吟味ハ周圍  
内ニ属スル諸里中ニ於テ吟味ス可シ二級ノ建  
設ノ為メニハ其吟味ヲ建設スル所ノ里ノミニ  
於テス

政令官署ノ決定ニ對シテノ訴訟

此件ニ付テ一級二級ノ建設ト三級ノ建設トヲ區別スルヲ要ス

一級二級ノ建設

州知事ヨリ既ニ許可ヲ與ヘタル後建設ヲ拒ムノ原告人アル時ハ其訴訟ハ州知事評議所ニ出シ又國議院ニ上告アリ

未タ許可セサル以前ナレハ州知事ノ恩命ヲ求メ得可シ

若シ許可ヲ拒ミタル時ハ願人州知事ノ決定ニ

對シテ國議院ニ上告シ得可シ

三級ノ建設

此建設ノ為メニハ本人ノ訴訟モ原告人ノ訴訟モ常ニ州知事評議所ニ適ス尤國議院ニ上告アリ

司法官署ニ屬スル事件

政令官署ノ許可ヲ得タレハ製造ノ本人ハ警部ノ法律ニ觸ル、事ナシ然レモ建設ヲ為シテ若シ隣人ニ損害スルコトアラバ此原告人ハ償金ヲ製造ノ本人ヨリ與フ可キヤ否

甲ハ云フ製造ノ本人ハ其建設ヨリシテ起レル  
損害ニ付キテ管スル事ナシ政令官署ノ許可ヲ  
受ケ得タル上ハ其受ケ得タル已レノ権利ヲ用  
フルナリ而シテ隣人ハ製造ノ自由ニ拘ハル此  
権利ヲ行フヲ聽従スルノ外他ナシ若シ之レニ  
違フテ決定スル時ハ司法ノ官署ニ政令官署ヲ  
監督セシムルノ類ニシテ政令官署ノ處置ヲ抑  
制スルナルヘシ

乙ハ云フ政令官署ノ許可ヲ與フルハ一般ノ利  
益ヲ謀リテ許可ヲ與ヘ一箇ノ私利ニハ管セサ  
ルカ故ニ製造ノ本人ノ権利ハ隣人ノ所有ノ権  
ヲ害セサルニ非レハ行フ可ラス故ニ若シ隣人  
ノ好シニヨリシテ起ル勦辨ヲ越ユル所ノ損害  
ヲ隣人ノ受タル事ヲ裁判所ニテ知ル所ハ裁判  
所ニ於テ民法千三百八十二個條ニ從テ製造ノ  
本人ヲシテ償金ヲ拂ハシムルヲ言渡シ得可  
シト

第四篇

公用買上

畧紀

千七百九十一年千七百九十三年及ヒ第三年ノ  
建国法ヲ以テ公用ノ為メニハ相當ノ償金ヲ以  
テ所有ノ権ヲ買ヒ取ル事ヲ載セタリ  
第八年ノ建国法ニ於テハ此个條ヲ載セサリシ  
ト雖モ民法五百四十五个條ヲ以テ此闕ヲ補ヘ  
リ

公用ノ布告買上及ヒ償金

所有ノ権ヲ奪フノ取扱ハ此三箇ノ手順アリ今  
茲ニ公用ヲ布令シ買上ヲ言渡シ失権者ニ給ス  
可キ償金ヲ定ムルノ任アル諸官署ヲ畧示セシ  
ル

此事件ニ付キテハ期限ヲ三ツニ分チテ説カサ  
ルヲ得ス

第一ノ期限

第八年雨月廿八日ノ法律及ヒ千八百七十九年  
十月十六日ノ法律ノ頃ハ工業ヲ起スヲ許可スル帝  
ノ制誥アレハ則チ公用タリ  
買上ケ及ヒ権ヲ奪フハ工業ヲ許可スル事アレ  
ハ則決定ナリ  
償金ハ州知事評議所ニテ規定セリ故ニ平人ノ  
所有ノ権ハ政令官署ノ隨意ナリ

第二ノ期限

スクウングルン<sup>名地</sup>ニ於テ「オポレオン」記シテ「カ  
ンバセレー」<sup>名人</sup>ニ送レル文書ニ從ヒ千八百十年  
三月八日ノ法律ハ公用ヲ布告スル「行政権  
ニ任シ買上ヲ言渡ス事ト民法ノ五百四十五个  
條ニ原ツキ償金ヲ定ムル事ト」司法ノ官署ニ  
任セリ

第三ノ期限

千八百三十三年七月七日ノ法律ヲ以テ工業ヲ  
許可スルノ権ヲ制法推ト行法推トニ分有シ買

上ケテ言渡ス権ヲ司法官署ニ托シ償金ヲ定ム  
ル事ノ権ヲ格段ノビリニ任セリ  
此法律ヲ千八百四十一年五月三日ノ法律ヲ以  
テ改正シ至急ノ時ノ公用買上ノ為メニ格段ノ  
規則ヲ規定セリ四十一年ノ法律ヲ又千八百五  
十二年十二月廿五日ノセナテスコンジルトヨ  
以テ変革シ工業ヲ許可スルノ権ヲ行法権ニ歸  
シタリ尤事業ノ為メニ資金ヲ要スル時ハ制法  
権ノ與スル事アリ

現今ノ制度



千八百四十一年五月三日ノ法律ヲ以テ規定シ  
タル買上ハ不動産ノミニ屬ス如何トナレハ此  
法律ハ不動産ノ買上ヲ主トスレハナリ  
損害ハ假令不朽ナリト雖モ第八年雨月廿八日  
ノ法律及ヒ千八百七年九月十六日ノ法律ヲ以  
テ處分シ償金ハ州知事評議所ニテ定ムル既  
ニ前ニ州知事評議所ノ推ヲ説キタル時ニ云ヘ  
ル如シ

築城ノ事業ノ為メニ土地ヲ奪フコトハ假令假リ  
ナリト雖モ格段ノ重リノ裁判ヲ要シ千八百

三十一年三月三十日ノ法律ヲ以テ處分ス

公用買上ハ国州或ハ里ニ拘ハル公業ノ為メニ  
非レハ為ス可ラス然レモ工業會社ニ付キテ出  
セル千八百六十五年六月廿二日ノ法律ヲ以テ  
官許ヲ得タル會社ノ諸工業ノ為メニ公用買上  
ヲ許セリ  
買上ノ規則ハ第一ニ公用ノ布告第二ニ買上ノ  
言渡シ第三ニ償金ノ定メ及ヒ拂ヒナリ今茲ニ  
又三時限ヲ分ケ説ク可シ此三時限ノ通常ノ規  
則ヲ先ニ述べ非常ノ場合ニ於テ為ス可キ別格

ヲ終リニ記ス可シ

通常ノ公用買上

第一ノ期限

公用ノ布告ニ拘ル規則即チ政令官署ニ属スル事件

公用ヲ布令

千八百五十二年十二月廿五日ノセ十五スコ  
ニルト以來公用ノ布令ハ国議院ニ於テ作ル工  
業ヲ許可スル帝ノ制誥ヲ以テセリ尤資金ヲ備  
フルヲ要スル時ハ制法官址議ニ與ルナリ

千八百五十二年ノセ十五スコニルトハ既ニ  
説ク如ク工業ヲ許可スルヲ全ク行法権ニ歸セ  
リ然レモ千八百四十一年五月三日ノ法律ニ從  
ヒ單一ノ制誥ヲ以テ許可シ來レルモノモ亦国  
議院ニテ作ル制誥ヲ以テ許可ス可キヤ否ヤノ  
論アリ

甲ハ云フ千八百五十二年ノセ十五スコニルト  
トハ行法権ノ権ヲ益シ其目的トスル所ハ大工  
業ヲ起スニ法律ヲ要シタルヲ廢スルニアリ而  
シテ以前單一ノ制誥ヲ以テ許可シ來レルモノ

迄モ国議院ニ於テ作ル制誥ヲ以テセシムルヲ  
望ミ国主ノ権ヲ減少スル爲メニハ非ルナリト  
此説ハ国議院ニ於テ取用ヒタリ  
乙ハ云フ千八百五十二年ノセナスコンシ  
トハ法律ヲ以テ許可スヘキ工業モ單一ノ制誥  
ヲ以テ許可スル工業モ區別スルヲナク一般ニ  
国議院ニ於テ作ル制誥ヲ要シ而シテ此セナ  
スコンシルトノ文面ハ従前ノ法ヲ改正スルニ  
非ス全ク之ニ代ラシメ以前ノ區別ヲ廢シ一定  
ノ規則ヲ立タルナリト此説ハ衆論ナリ

實ニセナスコンシルトノ文ハ一般ニシテ區  
別ヲ立ル事ナシ其文左ノ如シ

諸公業就中千八百三十二年四月廿一日ノ法  
律ノ十個條及ヒ千八百四十一年五月三日ノ  
法律ノ三個條ニ掲クル公業ハ帝ノ制誥ヲ以  
テ命シ或ハ許可ス此制誥ハ代法制誥ヲ作ル  
ノ式ニ從ヒ作ル可シ

国議院ニ於テ作ル帝ノ制誥ハ初メニ興發ノ趣  
意書ト便不便ノ吟味書トヲ記ス可シ

若シ制誥ヲ国議院ニ於テ作ラサルカ或ハ便否

ノ吟味ノ附セサル時ハ推ヲ越ルヲ以テ国議院ニ上告スル事アリ

買上ク可キ土地ノ指定メ

制誥ハ大意ヲ示スノミニシテ工業ノ為メニ要スル土地ヲ一箇毎ニ指示スモノニアラス一商毎ニ指示スハ州知事ノ任ナリ若シ工業ヲ起ス可キ地方ノ大体ヲモ制誥ヲ以テ定ムル事ナキ時ハ州知事ハ之レカ為メニ先ツ一ノ決定書ヲ作ル

制誥或ハ州知事ノ決定書ヲ以テ最前地方ヲ指

命シタル後ニ又法律ヲ以テ命シタル州知事ヲ教示スルノ方アリ左ノ如シ

第一築造師ノ作レル圖面ヲ各里ノ里廳ニ置キ關係アルモノハ報知ヲ受ケタル後八日間ニ里廳ノ簿冊ニ各見込ヲ記ス可シ

第二郡知事州知事ノ示シタル州會或ハ郡會ノ議員四人其里ノ里長及ヒ築造師一人ニテ組立タル郡ノ委員工業ノ施行ニ付キ意見ヲ述ブ

第三委員ニ於テ工業ノ場所ヲ変スルノ企アル時ハ其事ヲ關係アルモノニ報知シ八日間ニ其

見込ヲ述ヘシム

都テノ此式ノ後ニ州知事ハ又譲リ受ク可キ土地ヲ示シ且其譲リ渡ス可キ日限ヲ示ス所ノ決定書ヲ作ル

此決定書ハ推テ越ユルアルニ非サレハ上告アル事ナシ

第一ノ期限ノ文書ヲ畧説スレハ左ノ如シ

第一趣意書及ヒ便否ノ吟味書

第二帝ノ制誥

第三州知事ノ決定書

但關係アルモノ、見込ヲ聞キタル上ニテ譲リ受ク可キ一箇毎ノ土地ヲ示スモノナリ

第二ノ期限

公用買上ニ拘ル規則即チ司法官署ニ拘ル

事件

和談讓渡

州知事ノ決定書ヲ以テ示シタル土地ヲ取ルニ公用買上ノ手數ヲ經ルニ及バズ和談ヲ以テ讓渡スルアリ此和談讓渡ヲ擴ムル為メニ左ノ件ヲ設ク

第一民権無キ者ノ代人或ハ不在人ノ代人ハ裁判所ニ願出其許可ヲ以テ和談ノ讓渡シヲ為シ得可シ

第二裁判所ノ許可ヲ以テ和談ノ讓渡シヲ為スハ引手物ノ不動産ニモ適ス

第三国州里ノ如キ一箇ノ人ト見做スベキ者ノ代人モ亦和談ノ讓リ渡シヲ為シ得可シ

第四和談讓渡シノ約定書ハ政令文書ノ体裁ヲ以テス点檢及ヒ記簿ハ無賃ナリ

公用買上ノ裁判

和談ノ讓渡アラサレハ公用買上ヲ為ス公用買上ハ司法ノ官署ニ於テ為スモノニレテ之ヲ言渡スノ任ハ其物品ノ在ル郡ノ民事裁判所ニアリ

州知事ハ工業ヲ許ス所ノ制誥ト買上可キ土地ヲ示シタル已レノ作レル決定書トヲ其裁判所ノ国代ニ渡シ国代ノ請求アルヲ以テ其裁判所ニ於テ公用買上ヲ言渡ス

裁判所ノ職ハ法律ヲ以テ命シタル式ヲ満シタルカヲ質スノミニシテ工業ノ企ノ用不用ヲ裁

判スルニ非ス

裁判所ノ裁判ハ儀式ヲ満シタル事ヲ点檢シ公用買上ヲ受ク可キ持主ノ名前ヲ記シビリー長ノ職ヲ勤ムルノ任ヲ受ケタル裁判役ヲ示ス可シ

裁判ハ駁議ノ上告ノ外上告ナシ此上告ハ裁判ノ報知ヨリ三日内ニ於テス可シ

若シ裁判ヲ爲シタル裁判所物品所在ノ裁判所ニ非レハ不適當ノ理ヲ以テ上告スルヲ許ス

若シ求ナキ地ヲ公用買上ニ加ヘタル時ハ権ヲ

越ヘタルノ理ヲ以テ上告ヲ許ス

若シ裁判ヲ爲スニ法律ヲ以テ示シタル裁判役人ノ員數ヲ満サスミテ裁判シタル時ハ式ヲ破ルノ理ヲ以テ上告ヲ許ス

上告ハ民事ノ局ニ於テ裁判ス民事ノ局ハ一月間ニ之ヲ裁判スベシ若シ抗傳シテ裁判シタル決定書ハ違背ス可ラズ

公用買上ノ裁判ハ布令シ榜示シ郡ノ新聞紙ニ編入シ本人ニ報知シ收納抵當ノ官署ニ傳達シ公用買上ノ裁判ニヨリ生スル所ノ事件アリ左

ノ如シ

第一所有主ヨリ其権ヲ奪ヒ其権ヲ買上ル者ニ  
歸ス故ニ裁判ノ後ハ一切ノ事件皆買上人ノ任  
トナリ而シテ舊有主ハ其品ヲ以テ他人ト約束  
等ヲ為シ得可ラス然レモ償金ヲ拂フ迄ハ舊有  
主猶之ヲ用エルヲ得ベシ

第二不動産ニ及ビ居ル所有ノ権及ヒ其他ノ権  
利ヲ償金ノ金額ニ及ボス事

第三貸渡シ証文ヲ破解シ小作人或ハ借家人ノ  
権ヲ償金ニ及ボス事

第四首得義務或ハ収納抵当ノ権アル貸主ヨリ  
其権ヲ奪ヒビリニ於テ定メタル金額ニ権ヲ  
及ボス事

第五物品ヲ求ムルノ訴訟ヲ廢シビリノ定メ  
タル金額ニ付キテ訴訟スル事

州知事ノ決定後一箇年中ニ政令官署ニテ公用  
買上ヲ為サ、ル件ハ買上ヲ言渡サシムル為メ  
ニ所有主ヨリ裁判所ニ其言渡ヲ求メ得可シ  
若シ所有主和談ヲ以テ譲リ渡シテ一致スト雖  
モ其價直ニ付キ官署ト一致セサル件ハ裁判所

大蔵省



ニ於テ讓渡シニ一致シタル事ヲ記シ公用買上ノ裁判ヲ為サズ而シテ其償金ヲ定ムル為メニ關係アル双方ヲジリニ送ルナリ

第三ノ期限

償金ノ定メ及ヒ拂ヒ昂チジリニ關スル

事件

左ニ記ス所ノ場合ニ於テハジリヲシテ償金ヲ定メシム

第一公用買上ノ時

第二官署ト相手方ト直積リノ一致ナク讓渡

ニ一致シタル時

在前ノ處置

公用買上ヲ言渡シ或ハ讓渡シノ一致ヲ記ス裁判ノ報告ヲ受ケタル所有主ハ償金ヲ望ムノ推アル管係者ヲ八日内ニ官署ニ報知セシムルヲ要ス

法律ヲ以テ關係者ヲ二級ニ分テリ

一級ニ含ム所ノモノ左ノ如シ

第一實產占有ノ權或ハ居住スルノ權或ハ民法ヲ以テ規定シアル所得ノ權ヲ有スルモノ

第二所有主ノ約定書或ハ其他ノ文書ヲ以テ義務ヲ受ルノ権アルモノ

第三小作人及ヒ借家人及ヒ永期ノ免許ヲ受ケ居ルモノ

二級ニ含ム所ノモノハ都テ前ニ載セタル関係者ノ外ノ関係者ヲ含ム就中森林ノ法ヲ以テ規定シタル所得ノ権ヲ有シタルモノ

関係者ヲ二級ニ分ケテ益アリ即チ一級ノ関係者ハ報告ヲ受ケタル日ヨリ八日ノ期限内ニ所有主ヨリ官署ニ報知ス怠ル中ハ所有主其責ニ

任ス

二級ノ関係者ハ関係者ノ名簿ヲ報告シタル日ヨリ八日以内ニ自親ニ官署ニ報知ス可シ若シ怠ル時ハ此権ヲ失フ

此ノ如クシテ関係者ヲ知りタル上官署ハ裁判ヨリ六ヶ月間ニ償金ノ高ヲ関係者ニ報知ス関係者ハ十五日以内ニ承諾或ハ已レノ欲スル金額ヲ報告ス可シ若シ関係者報告ヲ怠ル時ハ償金ヲ受ルノ権ヲ失スルヲ又與フル所ノ償金ヲ承諾シタルトモ見做サズト雖モ拒ミト見做

大蔵省

シ諸雜費ヲ怠リタル關係者ニ負ハシム假令關係者ノ求ムル償金ノ金額ヲジリーニ於テ許スト雖モ費ヲ怠リタル關係者ニ負ハシム民推ナキモノ、代人ハ我カ欲スル金額ヲ報告スルニ一个月ノ期限ヲ許ス又承諾及ヒ拒ミノ報告ヲ怠ルトモ費ヲ負ハシメス

官署ヨリ與フル金額ヲ受ケサルハ官署ニ於テハ關係者ヲジリーノ目前ニ呼出ス可シ若シ公用買上ノ裁判ヨリ六個月間ニ償金ヲ定ムルヲ官署ニ於テ為サハルハ相手方ヨリ公用買

上ノジリーヲ撰ブノ任アル裁判所ニ願フ出シ之ヲ行フヲ求メ得可シ

ジリーノ設ケ方

公用買上ノジリーハ刑事ノジリーノ如ク三ツノ名簿ヲ以テ起ス即チ一歳ノ名簿一組ノ名簿一事件ノ名簿ナリ

一歳ノ名簿

州會ニ於テ刑事ジリーノ名簿中ニ郡毎ニ其郡ニ居住スル処ノ者三十六人ヨリ七十二人ヲ取リテ「ジリー」ノ員トス

セー州ノ為メニハ郡毎ニセスレテ全州ノ為  
メニ定メ置キヅリノ員タルモノ六百人ナリ  
リヨシ郡ノ為メニハヅリノ員數二百人ヲ定  
メ置クナリ

一組ノ名簿

州ノ首府ノ裁判所ノ會議ノ室ニ於テ十六人ノ  
現職ノヅリノ員ト四人ノ準備ノヅリトヲ  
撰ヒテ以テ此名簿ヲ作ル

此名簿ハ州知事ヨリ郡知事ニ渡シ郡知事ハヅ  
リ長ト相談ノ上集會スル八日以前ニ會合

日ト場所トヲヅリノ員及ヒ相手ニ示シ且ツ  
之ヲ呼出ス

一事件ノ名簿

一組ノヅリノ員ヲ召集メタル上ニテ「ヅリ」ノ  
定ム可キ件々ヲヅリニ托スル時ニ官署ト相  
手ト別々ニ二人ノ省キヲ為ス可シ若シ省ク  
アラサレハヅリノ長ハ名簿中ノ末座ニ居ルモ  
ノヲ除キテヅリノ員ヲ十二人ニ減ス依テ十  
二人ノ員ヲ以テ一事件ノヅリヲ作ルナリ

刑事ノヅリト公用買上ノヅリトノ差異

大蔵省

第一刑事ジリノ一歳名簿ハ少クモジリノ  
負タルモノ三百人ニシテ全州ノ為メニ作り州  
知事之ヲ決定ス公用買上ノジリノ一歳ノ名  
簿ハ其員タルモノ三十六人ヨリ七十二人ニシ  
テ郡毎ニ州會ニ於テ作ル

第二刑事ジリノ一組ノ名簿ハ三十六人ヲ載  
ス之ヲ挙ルニハ州ノ首府ノ裁判所ノ首坐ノ者  
公然ニ拈闔シテ定ム公用買上ノジリノ一組  
名簿ハ單ニ十六人ヲ載ス裁判所ノ會議ノ室ニ  
於テ撰フ

第三刑事ニ拘ハリテ最初ニ省キヲ為スモノハ  
罪人ナリ公用買上ニ付テハ官署最初ニ省ク  
第四刑事ノジリノハ事件毎ニ必ス十二人ヲ要  
スジリノ首坐ハ拈闔シテ定メ投票相匹敵ス  
ル時ジリノ首坐ノ組スル方ヲ取ルニ非ス公用  
買上ノジリノハ九人ヲ以テモ足レリトスジリ  
ノ首坐ハ其員中ニ撰ヒ投票匹敵スル時ハ其首  
坐ノ組スル方ヲ取ル

第五刑事ニ付テ省ク事ナキ時ハ拈闔シ最初ノ  
十二人ヲ取りジリノヲ組立ツ公用買上ニ付キ

テ省キアラサル中ハ一組名簿ノ記載ノ初メハ  
十二人ヲ取テジリ一ヲ組立ツ  
公用買上ノジリ一ハ十二人ヲ以テ組立可キナ  
レハ九人以下ニハ下ル可ラス

ジリ一ノ決定

ジリ一ヲ組立タル上各員誓ヲ為スジリ一ノ長  
ハ共フル金額ノ表ト相手ノ求メト圖面其外相  
手ヨリ出シタル文書ヲジリ一ノ目前ニ供ス  
ジリ一ハ評決スル為メニ相手ノ見込ヲ尋テ得  
可ク又已レニ教示ス可キ人ト思フ人ニ教示ヲ

受テ得可ク又時宜ニヨリ實地ヲ検査シ得可シ  
ジリ一ノ長ハ其討論ヲ處分シ會合ノ取締ヲ任  
ス討論ハ公然ナリ

ジリ一決定ハ過半ノ同意ヲ取ル若シ同意正敵  
スルキハジリ一ノ首坐ノ組スル方ヲ取ル  
若シ五人ハ六萬フランクヲ共フル事ヲ同意シ  
三人ハ八萬フランクヲ共フルヲ同意シ四人  
ハ十萬フランクヲ共フル事ヲ同意スル時ハ過  
半同意アルヲナシ然レモジリ一ノ員各我カ見  
込ヲ主張スルカ故ニ終ニ十萬フランクノ數ヲ

減シテ八萬フランクニ止リ終ニ過半同意ヲ得ルニ至ル可シ如何トナレハ百ト投票シタル者ハ八十迄ハ下リ得可ク而シテ此八十ノ數ハ過半ノ同意ヲ得ルニ切近スルモノナレハナリ  
若シ六人六萬フランクヲ共フルト同意シ四人ハ八萬フランクヲ共フルト同意シ二人ハ十萬フランクヲ共フルト同意シ首坐ハ六人ノ中ニ組シ居ルハ六萬フランクヲ取ル可シ如何トナレハ同意匹敵ノ時ハ首坐ノ組スル方ヲ取ルカ故ナリ

償金ヲ定ムル規則

償金ヲ求ムルモノハ其求メニ種々ノ名目アルカ故ニ請求人ノ為メニ定リ一ハ一箇毎ニ償金ヲ定ム然レモ實產占有ノ推ノ為ニハ不動産ノ全價ニ付テ償金ヲ定ム依テ空虚ノ所有主ト占有ノ主トハ其推ヲ動產ニ及ス事ナク償金ニ及スナリ  
金額ニ推ヲ移シタル占有ノ主ハ民法六百一條ニ從ヒ其推ノ廢ス可キ場合ニ居ラハ保証ヲ與フルヲ要ス

若し償金請求人ノ権ノ有無或ハ其身分ニ付キ  
テ故障アル時ハヅリハ假リニ償金ヲ定メ置  
キ裁判所ニ於テ此故障ヲ審判スルヲ待ツ依テ  
所有主ノ承諾セサル義務ヲ原告人希望スル時  
ハヅリハ二様ノ償金ヲ定ム一ハ義務ナキ所  
有品ノ價ヲ以テ償金ヲ定ム一ハ義務アルト裁  
決シタル所ノ為メニ義務アル所有品ノ價ヲ以  
テ償金ヲ定メ及ヒ義務ヲ受ク可キ人ノ為メニ  
償金ヲ定ム可シ

不動産ノ所有ノ権ヲ因ト平人ト争フ時ハ平人

ヲ所有主ト裁決シタル時ノ償金ヲヅリハニ於  
テ定ム

所有主ノ願ニ依テ公用買上ハ全キ土地ニ及ス  
可キカ或ハ裁決ノ模様ニヨリ土地ノ部分ニ及  
ス可キカノ定ラサル所ハ全キ土地ニ及ス可キ  
ト裁決シタル時ト部分ニ及ス可キト裁決シタ  
ル時トノ為メニ兩様ニ償金ヲ定ム  
小作人或ハ借家人ニ慥ナル証書ナキヲ以テ償  
金ヲ受ルノ権ヲ官署ニテ拒ミタル所ハヅリハ  
償金ヲ受ルノ権アリト裁決シタル時ノ為メ

大 裁 省



ニ償金ヲ定ム

ヰリノ定ムル償金ハ官署ヨリ共ヘント欲ス  
ル高ニ下ラス又相手ヨリ受ント欲スル求メノ  
高ヨリ上ル可ラス

ヰリハ償金ノ直積リヲ変ス可キ諸文書ノ確  
實ナル事ノ鑒定ヲ為ス

公用買上ヲ受ケタル土地ノ残地ニ工業ノ為メ  
ニ直増アル時ニ此直増シヲ以テ償金ノ直積リ  
ニ加ヘテ差引ク可シ然レモ此直増シノ高ヲ以  
テ全ク償金ニ滿テ所有主ニ償金ヲ全ク與ヘサ

ル可ラス如何トナレハ公用買上ノ事件ニ付テ  
ハ工業ノ設立ヨリ所有主ノ受ル處ノ利益ニ管  
セス償金ヲ所有主ニ與フルハ法律ノ望ム所ナ  
レハナリ是ハ公用買上ニ非カル他ノ事件トハ  
大ニ異ナル所アリ既ニ前ニ説キタル如ク千八  
百七年九月十六日法律ヲ以テハ受ケタル損害  
ト工業ノ設立ヨリ生シタル直増トヲ差引スル  
ノミナラス若シ損害ノ償金高ノ上ニ増直ノ金  
額上ル所ハ所有主ヲシテ其上ル所ノ餘分ヲ拂  
ハシムル事ヲ許セリ建築樹藝及ヒ修繕ハ之ヲ

行フタル時限或ハ其他ノ模様ヲ以テ全ク償金  
ヲ多ク得ント欲スル主意ヲ以テ爲シタルト  
シリニテ鑒定シタル時ハ其爲メニ償金ヲ與  
フ可ラス

元來償金ハ公用買上ノ土地ニアラサレハ給ス  
可ラスト雖モ土地ノ部分ヲ公用買上ニ當テラ  
レタル所有主ハ左ノ場合ニ於テ全クノ土地ノ  
買上ヲ求メ得可シ

第一建築ナル時

第二公用買上ヲ受ケ全キ土地ヲ四分ノ一迄ニ

減シ公用ニ當ラサル残地ハ十アールハ一アール  
方ナルヲ下ル時尤残地ニ續キタル土地ヲ持主  
ノ領スル時ハ此例ニ非ス

此兩項ニ於テ更ニ官署ヨリ償金ヲ與フ可シ  
官署ニ於テ全クノ公用買上ノ願ヲ承諾スルヲ  
布告スル所ハ所有主ノ変心セサルヲ確証ス  
ルヲ要ス

ビリーノ決定ノ執行

ビリーノ決定ハビリー長ニテ執行ス可キモノ  
トナス

九  
第  
百  
三  
十  
一  
條  
ジリ一長ハ訴訟法ノ百三十及ヒ百三十一條  
ニ從ヒ買上ヲ受ケタルモノヨリ求メタル金額  
ニ當ル償金ヲ供フルヲジリ一ニテ決定シタル  
時ハ官署ヲシテ費ヲ拂ハシム若シ官署ヨリ供  
フル金額ヲジリ一ニテ十分ト思フ時ハ費ヲ買  
上ヲ受タルモノヲシテ拂ハシム  
若シ命價ノ官署ヨリ供フル金額ニモ買上ヲ受  
ケタルモノ、求ムル金額ニモ相當セサル時ハ  
費ヲ双方ニ負ハシム  
民権ヲ得サルモノ、外諸關係者ニテ官署ノ供

ハニ付テ十五日内ニ何タル事モ云出サル時ハ  
ジリ一ノ命價ノ如何ナルヲ論セス怠リタル者  
ヲシテ費ヲ負ハシム  
ジリ一ノ決定及ヒジリ一長ノ命令書ハ駁議ア  
ルノミ  
駁議ヲ求ルノ時限ハ決定ノ日ヨリ十五日間十  
リ  
裁判ノ駁議ノ求メノ如ク此駁議モ亦直チニ民  
事ノ室ニ於テ評定シ吟味ノ室ニ於テ前以テ吟  
味スルヲナシ

大 裁 省  
駁議ヲ求ムルノ道理ハ法律ヲ以テ制限ヲ出シテ  
専ラ式ヲ破リタルノ理ヲ以テ駁議ヲ求ム譬ヘ  
ハ一組ノジリノ指示シ方ニ拘ハル規則關係  
者ニジリノ名簿ノ報知ノ規則省キノ権ニ拘  
ハル規則ジリノ組立方及ヒ評定ニ拘ハル規  
則償金ノ定メ方ニ拘ハル規則及ヒ費ヲ負ハシ  
ムルニ付テノ規則ニ戻ル事アレハ駁議ノ求メ  
アリ

若シ民事ノ室ニ於テジリノ決定ヲ破リタル  
時ハ同郡ノ新ジリニ事務ヲ托ス或ハ模様ニ

ヨリ近隣ノ郡或ハ他州ノ郡ノジリニ托スル  
事モアリ

### 償金ノ拂方

ジリノ定メタル償金ハ物品ヲ取ル以前ニ拂  
フヲ要ス

償金ヲ受クルヲ拒ミタル時ハ其金ヲ預ケ置キ  
物品ヲ領シ得可シ

國或ハ州ニ對シテハ出納役ノ点檢アル拂ヲ余  
スル人ノ拂ノ命令書ヲ以テ物品ヲ領シ得可シ  
若シ此命令書ヲ拒ムハ正金ヲ預ク可シ

買上タル土地ノ書入質アル時或ハ償金ヲ所有  
主ニ與フルノ妨ケアル時ハ前以テ金額與フル  
事ナク必ス預ケ金ヲ以テ買上ク可シ  
償金ヲ六個月間ニ濟サス又預ケ金モ為サ、ル  
時ハ民法ノ千百五十三條及ヒ千六百五十二條  
ト違ヒ其期限ヨリ先ハ利金ヲ加フ可シ  
官署ノ怠リヨリシテ平民ノ迷惑トナラサル為  
メ官署ヲシテ公用買上ヲ言渡サシメ償金ヲ定  
メシメ又之ヲ促シ拂ハシムルノ權ヲ平民ニ許  
ス

人ニ先立テ買受ルノ權

此權ハ公用ノ為メニ買上タル土地ノ公用ニ當  
ラサル時之ヲ買戻スヲ求ムルノ權ニシテ舊有  
主或ハ其權ヲ繼クモノニ許シタル免許ナリ  
買戻シノ土地ノ價ハ和談ヲ以テ定ム若シ不  
致ノ時ハ登記リヲ以テ定ム然レモ登記リノ直  
積リハ官署ノ買上ケタル價ヲ越ユ可ラス  
不動産ノ一部分ハ既ニ公用買上ニ當リ残リノ  
分ヲ他人ニ別段ノ名義ヲ以テ譲リタル時ハ残  
地ノ新有主ハ公用買上ヲ受ケ其用ニ充カ、ル

地ヲ買戻スノ権ヲ有スルヤ否此論紛々  
甲ハ云フ格段ノ名義ヲ以テ権ヲ得タルモノハ  
一般ノ名義ヲ以テ権ヲ得タル如ク買戻シノ権  
ヲ有シ得可シ如何トナレバ法律中ニ権ヲ持ツ  
モノト載セタルハ舊有主ノ権ヲ格段ノ名義ヲ  
以テ受タルモノモ一般ノ名義ヲ以テ受タル者  
モ含蓄スレハナリ且ツ法律ノ主意ハ土地ノ切  
断スルヲ避ルカ為メナレハナリ  
乙ハ云フ買戻シノ権ハ賣買ノ時ニ其内ニ含マ  
サルモノナリ故ニ格段ノ名義ヲ以テ譲リヲ受

ケタル者ハ已レニ賣渡シナキ権利ヲ行ヒ得可  
ラス権利ヲ譲リ受ケタルモノト云フ義ハ其権  
利ノ創業者ノ権利及ヒ義務ヲ引受ク可キ者ノ  
ミヲ云フ故ニ買戻シノ権ハ買上ヲ受タルモノ  
ヲ公然ニ代理ス可キモノニシテ一般ノ名義ヲ  
以テ其権利ヲ継ク可キ者ニ非サレハ行ヒ得可  
ラズト此論ハバトビー及ウアトラン氏ノ同意  
スル処ナリ

買戻シノ権ハ土地ノ部分ノ買上ケヲ受タル持  
主ヨリ全クノ土地ノ買上ケヲ求メタル時ニ當

ツ可ラズ假令求メテ買上ヲ受タル土地ノ工業  
ニ當ラサル時ト雖モ其買戻シヲ願ヒ得可ラス  
如何トナレハ所有主ヨリ官署ニ買上ヲ求メテ  
其土地ノ工業ニ不用ナル事ハ前以テ知ル所ナ  
レハナリ然レモ買上ヲ受タル土地ノ一部分モ  
工業ニ用ヒサル片ハ其全地ノ買戻シヲ求メ得  
可シ如何トナレハ公用買上ヲ為シタル主意ナ  
ケレハナリ

非常ノ公用買上

至急ノ時及ヒ兵事ニ拘ハル工業ハ為ニハ別段

ノ規則アリ

至急ノ時ノ公用買上

至急ノ時ハ土地ヲ領スルニ拂ハ元ヨリ計リ  
ニ於テ未タ償金ヲ定メサル以前ニ領シ得可シ  
然レトモ之ヲ為スニ數多ノ義務アリ

第一至急ナル事ヲ帝ノ制誥ヲ以テ別段布令ス  
ルヲ要ス

第二前以テ土地ヲ領スルハ建築ノ十キ土地ニ  
非サレハ為ス可ラス

第三土地ヲ領スルニハ公用買上ノ布令ノ後ニ

判所ニ於テ定メタル金額ヲ預ケ置クコトヨシ  
先ニス可シ此金額ハ公用買上ヲ受タル所有主  
ノ為メニハ質物ノ類ナリ

至急ノ時ノ買上ノ手續ハ通上ノ買上ノ時ニ比  
スレハ一層ノ手續ヲ増スナリ如何トナレハ公  
用ノ布令及ヒ公用買上ノ言渡シニ拘ハルニツ  
ノ期限ノ後直ニジリトヲシテ金額ヲ定メシメ  
スレテ裁判所ニテ先ツ官署ヨリ預ク可キ金額  
ヲ定ムレハナリ

所領シタル上通例ノ式ニ從ヒ買上ケヲ受タル

モノニ給ス可キ償金ヲジリトヲシテ確定セシ  
ム

若シジリトノ直積リ先ニ裁判所ニテ定メタル  
金額ヲ越ヘタル件ハ其越ヘタル高ヲジリトノ  
決定ノ布告ヨリ十五日間ニ給ス可シ若シ給ス  
ル事ナキ時ハ工業ヲ引續キ行フコトヲ買上ヲ受  
ケタルモノヨリ拒ミ得可シ

海陸軍ノ工業ノ為メニ公用買上

此工業ヲ通常ノ工業ト築造ノ工業トニ分ツ  
通常ノ工業ノ為メニハ公用買上ノ第一ノ期限



ノ規則ヲ用ヒサルカ故ニ許可ノ制誥ハ前以テ  
吟味スルヲナクシテ作り公用ニ當ル土地ヲ直  
ニ此制誥ヲ以テ定ム

公用買上ノ裁判ニリ一ニ於テ償金ヲ定ムル  
及ヒ償金拂方ニ拘ハル第二第三ノ期限ニ拘ハ  
ル規則ハ同様ナリ

至急ノ築造ノ工業ノ為メニ公用買上或ハ土地  
ヲ假リニ領スルノ規則ハ千八百三十一年三月  
三十日ノ法ヲ以テ定メアリ然レモ千八百四十  
一年五月三日ノ法律以來償金ヲ定ムルハ僅リ

一ニ托セリ

至急ノ民事ノ工業ノ為メノ如ク工業ノ布令ト  
制誥ヲ以テ至急ナル事ヲ確証スルトヲ要シ又  
裁判所ノ公用買上ノ裁判ヲ要ス然レモ此公用  
買上ハ民事ノ工業ト異ナル所アリ

第一公用買上ヲ建築アル所有地ニ當テ得可キ  
事

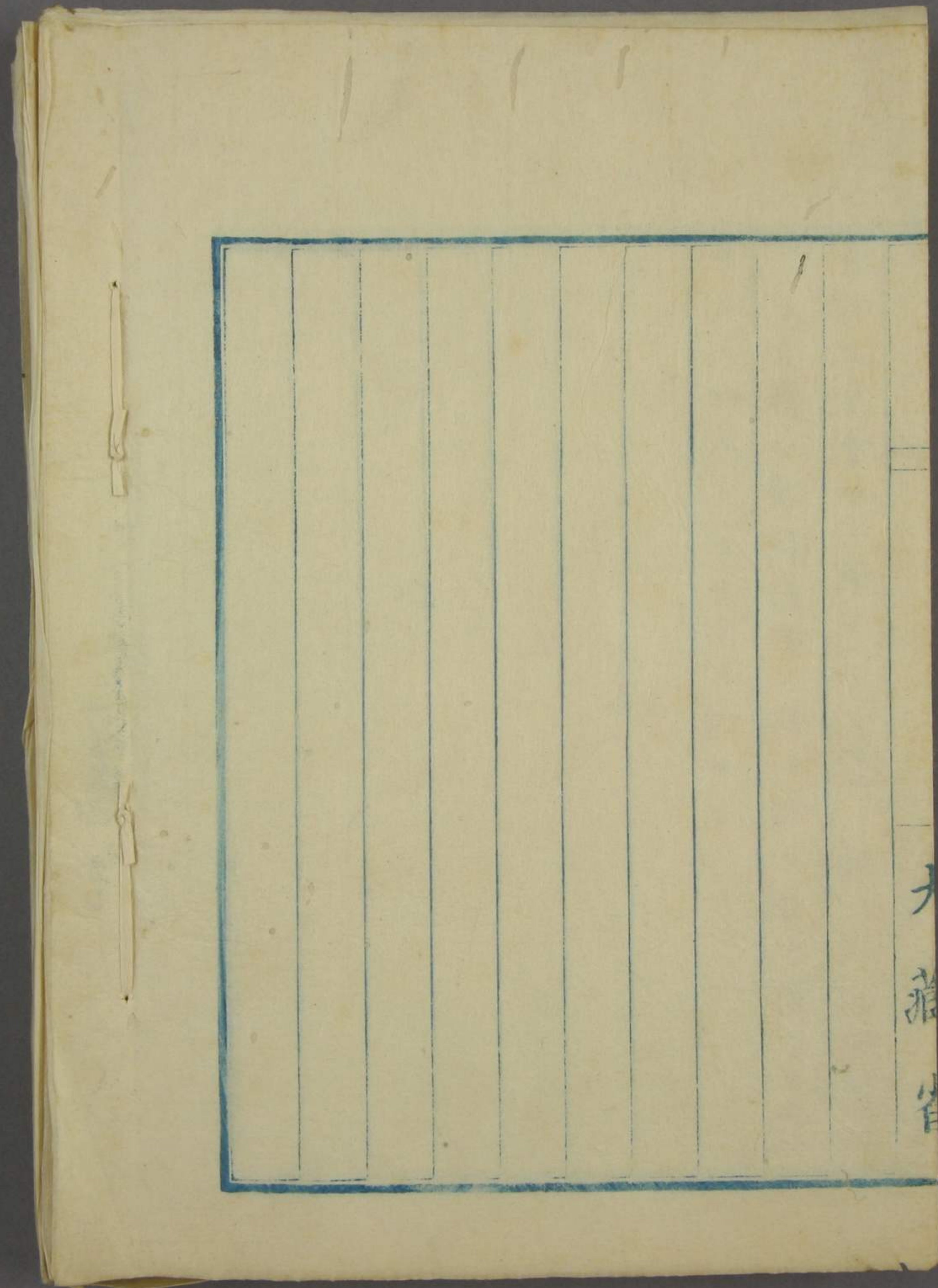
第二公用買上ノ裁判ト同時ニ假リノ償金ヲ定  
ム之ヲ定ムルニ裁判役一人頭取リテ至急ニ償  
價ヲ為ス

至急ノ時建築アル所有地ヲ假リニ領スルニハ  
其手數ヲ經ススレテ直チニ行ヒ得可ラス假リ  
ニ償金ヲ裁判所ニテ定ルヲ要ス若シ三年間假  
領ヲ引續ケ止メサル片ハ所有主ヨリ其所有ノ  
権ヲ官署ニ歸スルヲ願ヒ得可シ  
公用買上ナルモ假ノ所領ナルモ償金ヲ確定ス  
ルハ並リナリ  
種々ノ法律ヲ以テ千八百四十一年三月三日ノ  
法律ノ數个條ヲ変正セリ茲ニ鄙郷道路ノ件ヲ  
掲ケ示ス可シ

第一鄙郷道路ノ幅ヲ許可シ及ヒ定ムル所ノ州  
知事ノ決定書ハ裁判所ニ於テ公用買上ケノ裁  
判ナシト雖モ此決定書ヲ以テ定メアル經界中  
ニ含蓄スル所ノ土地ハ直チニ里ノ公有地ニ歸  
シ償金ハ和談ヲ以テス然ラサレハ命價人ニ問  
ヒ治安裁判役之ヲ定ム

第二鄙郷道路ノ新開及ヒ改正ノ決定書ハ其決  
定書ノミヲ以テ公用ノ布令トナシ國議院ニ於  
テ作ル帝ノ制誥ニ代用ス且償金ハ四人ヲ以テ  
組立タル格段ノ並リニテ定ム

官許工業會社ニ歸スル工業ノ爲メニ公用買上  
ヲ爲ス時ハ鄙郷道路ノ件ニ於ル如ク償金ヲ定  
ムルハ四人ノ計リニ於テス



大  
雅  
堂